

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



9月19日～20日におこなった東北海岸林再生活動では津波被害を受けた荒浜でクロマツ苗300本を植えた。

Contents

- ご参加ください GEN 運営懇談会 P 2
- 年末寄付のお願い P 2
- 中国メディアが大同を訪問 P 3
- 黄土高原史話 P 6
- 大同緑化協力 25 年の軌跡 P 7

2019.11
190

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

ご参加ください

GEN 運営懇談会

2019 年度も東京と大阪で運営懇談会を開催します。

運営懇談会は GEN の活動を支える会員のみなさんに自由に意見やアイデアを出していただき、会の活動と運営に生かす場として毎年おこなわれています。みなさんの参加をお待ちしています。

【大阪会場】

○日時：12 月 7 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分

○会場：大淀コミュニティセンター第 3 会議室（大阪市北区本庄東 3-8-2 大阪メトロ谷町線・堺筋線「天神橋筋六丁目」駅 11 番出口より徒歩 8 分）

○終了後、懇親会を予定しています。会費 4,000 円程度。懇親会参加をご

希望のかたは 12 月 4 日（水）までに GEN 事務所へお申込みください。

【東京会場】

○日時：12 月 14 日（土）15 時～18 時ごろまで。運営懇談会に先立ち、13 時 30 分～高見副代表による蔚県の現状報告をおこないます。

○会場：立教大学池袋キャンパス 人文研究センター室 ロイドホール（図書館の建物）5 階 L520 室

○参加費無料、事前申し込み不要

○終了後、同会場にて懇親会をおこないます。

○当日連絡先：03-3985-4333（会場直通）

年末寄付のお願い

いつも GEN を応援いただき、ありがとうございます。7 月の夏季寄付のお願いでは多くのかたにご協力をいただき、感謝しております。

GEN の蔚県での活動は植樹活動ほか、鳥類調査の実施など新たな取り組みがすすんでいます。プロジェクト継続のため、みなさまのご協力をどうぞよろしくお願いします。

緑化基金、運営資金、東北の海岸林再生、どの項目へのご寄付も歓迎いたします。おまかせカンパにしてい

くと最も必要としている部分に充当させていただきます。

発送作業の都合上、郵便振替の用紙を一律に同封します。最近にご協力いただいたかたには重ねてのお願いではありませのでご了承くださいますようお願いいたします。

GEN への寄付はクレジットカード決済が可能です。くわしくは GEN のホームページ (http://gen-tree.org/join_donate/credit.html) をご覧ください。

2020 春黄土高原 スタディツアー 予告

来春のツアー日程が決まりました。春は植樹の季節です。参加をご希望の方は日程を開けておいてください。

○日程：2020 年 4 月 18 日（土）～23 日（木）5 泊 6 日

○訪問先：中国河北省張家口市蔚県（北京経由）

○定員：30 名程度

○費用：198,000 円（昨年実績）

※詳細は次号でお知らせします。

蔚県の樹木見本園に説明版建設 中国語と日本語で紹介文

張家口市蔚県で地元と協力して樹木見本園を建設していますが、10 月中旬に訪れると、りっぱな看板が建っていました。右上に中国語でこの樹木園の紹介がなされていますが、その下には日本語による紹介もあります。

「蔚県郷土樹木園は蔚州古城の北部、壺流河国家湿地公園内にあり、面積は 16.67ha です。蔚県人民政府と国際組織「緑の地球ネットワーク」が協力して 2018 年から建設しています。

蔚県郷土樹木園には、壺流河湿地と小五台山から新しく導入した植物と、当地で以前から植えられてきた樹木、あわせて 28 科 49 属 100 種があります。

蔚県郷土樹木園の建設は、張家口市地区における専門的な植物園の空白を補い、郷土樹木の活用を促進します。植物知識の普及のために重要な意義があり、当地の生態系の保護にとって積極的な作用を果たします。2019 年 5 月

そして新しく導入された樹木が植えられている場所が図示されています。

従来は玉壺湿地公園のなかとしてきたものが、国家湿地公園内へ変わったのは、場所が移動したのではなく、公園の境界が変わったためです。これまでの 7.5ha が 16.67ha と 2 倍強に増え

たのは、壺流河の対岸部分も含まれることになったためです。これらによって、湿地保護のモデルづくりの意義がずっと大きくなったと思います。

この秋にも蔚県南部の山地からたくさんの種類の喬木・灌木が導入され、試験的にネームプレートがつけられたものもあります。名前のほかに、生えている場所、特徴などの説明が加えられています。





中国メディアが大同を訪問

対中国 ODA がはじまったのは大平内閣のときの 1979 年で、中国の改革開放政策がはじまってまもなくのことでした。その 40 周年と昨年安倍総理訪中に合意されたその終結を記念して、在中国日本大使館が主催するプレスツアーが開催され、10 月 12 日（土）に、新華社、人民日報など中国のメディアが大同の私たちの協力プロジェクトを訪れました。高見副代表が案内しました。

早朝の飛行機で到着することになっていましたが、大同空港が濃霧で、いったん北京に引き返したため、当初の予定より 3 時間近くスタートが遅れてしまいました。

まず、私たちの最初の協力拠点・環境林センター（1995～2010）を基礎に建設された口泉植物園の友好苑を訪れ、ここで実施されたさまざまな活動を紹介しました。

つぎに訪れたのは大同県の遇駕山村です。ここは山西省のなかで最後に残った飲み水に困る村で、日本大使館の草の根無償資金協力によって、井戸を掘ったのです。一度の失敗のあと、水がでたとき、県の水務局長は「この井戸を

掘れたのはあなたたちが門外漢だったからだ」と述べたそうです。すでに何度も失敗しており、事情を知っている関係者は手を出そうとしなかったからです。村の人たちの喜びはそのぶん大きかったのです。一軒の農家を訪れた記者たちはなかなか出てきませんでした。

その向かいの山にある采涼山プロジェクトをつぎに訪れました。1999 年春から 6 年をかけて 230ha にモンゴリマツ（樟子松）を植えました。地上部が 10～15cm の小苗を植えましたが、いまでは 8m ほどの立派な松林になっています。大同市林業局の技術者たちが口をそろえて「条件が悪すぎるからやめたほうがいい」と忠告したところですが、みごとに成功し、周囲に 1000ha 規模の国家プロジェクトを呼び寄せる働きをしました。

その地続きに実験林場カササギの森があります。草もまばらな荒廃地だったところが、みごとに緑で覆われています。

これらの現場取材にあたっては、樹木が植ええられる前の

ものから、年数を追って木々が大きくなっていく写真を示し、それとの対比で現在のようすをみてもらいました。東北の津波被災地を案内してくださる工藤寛之さんのやり方に学んだのです。

記者たちは、こちらの説明が終わるのを待たないで、つぎつぎに質問を浴びせ、きわめて熱心に取材しました。日本大使館の担当者も「大同にきてよかった。ほかの現場では担当者が何人も替わっていて、当時のことを具体的に説明できないことが多かったのです」ということでした。記者のなかには「来春の習近平国家主席の訪日を控え、良好な環境をつくる任務があります」と話す人もいたそうです。（高見）



ONE WORLD FESTIVAL for Youth

高校生のための
国際交流・国際協力 EXPO 2018
ボランティア募集

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth は高校生が主体となって国際的な課題の理解を深める場として毎年 12 月に行なわれ、世界の課題について発表する「ポスターセッション」、国際協力に取り組む団体の「ブース出展」、世界各地の料理が楽しめる「カフェ・ワンワールド」などさまざまなプログラムを用意しています。

GEN は今年も NGO のブースで出展

します。当日ブースを手伝っていただける方を募集しています。興味のある方は GEN までご連絡ください。

○日時：12 月 15 日（日）10 時～16 時
○会場：大阪 YMCA（大阪市西区土佐堀 1-5-6 大阪メトロ四つ橋線「肥後橋」駅 3 号出口より徒歩 5 分）

○入場料：無料

○主催：ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2019 運営委員会、（特活）関西 NGO 協議会

○問合せ：ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2019 事務局（大阪市北区茶屋町 2-30 4 階（関西 NGO 協議会）tel. 06-6377-5144 fax. 06-6377-5148 e-mail: youth_expo@kansaingo.net URL <http://owf-youth.com>）

GEN 自然と親しむ会 今後の予定

◆南港野鳥園で冬のバードウォッチング

○日程：2020 年 2 月 8 日（土）10 時～15 時ごろまで

○場所：大阪南港野鳥園（大阪市住之江区南港北 3-5-30 大阪メトロ南港ポートタウン線「トレードセンター前」駅 3 番出口より西へ徒歩 13 分）

○講師：高田直俊さん（元大阪自然環境保全協会会長）

※詳細は次号でご案内します。



晩夏の御岳山で自然観察会

山田 温子 (GEN 会員)

9月7日、GEN 関東ランチで御岳山自然観察会をおこないました。14名が参加しました。

御岳山は標高 929m、奥多摩の東側に位置する、山頂に、狼の守り神を戴く山です。江戸時代には江戸の護りとされ、庶民の社寺詣でが盛んに行われ、今に至っています。

標高 831m でケーブルカーを下りると、傾斜のきつい山道。ですが、山道の周囲には、可憐な薄紫のレンゲショウマが群生、そして、これから咲き出すサラシナショウマの蕾の穂が立ち並ぶ懐かしい光景。その先ロックガーデンへ進むゆるい下り道では、バアソブ、トリカブト、フシグロセンノウ、ヤマ

ジノホトトギス……と、この季節の山の花々に迎えられました。

案内は桜井尚武先生。希少なレンゲショウマがこれだけ群生するには、繁殖を邪魔する植物を、人が抜き取り抜き取りしてきたためではないかとのお話。花の解説はもちろん、樹木の違い等、興味深いお話をいただきました。

ロックガーデンの澄んだ水の流れ、流れの中に歩きやすいように並べられた大きな岩（いつ、だれが並べてくれたのか?）、そして、涼しい水に足を洗われる程、水近くでの昼食休憩。木々

の間から流れ出る滝。なんと、恐れていた蚊もブヨも現れず、この季節の森林、水辺の気持ち良さをゆっくり味わうことができました。

最後に山香荘でお風呂。男性陣はカッとビールを飲んだらたちまち下山。女性は美味しいコーヒーでゆっくりお話。親睦を深めました。厳しい道では助け合う、良きメンバーに恵まれた観察会でした。



東北の防風林、着実な成長を確認

桜井 尚武 (GEN 顧問)

9月19日～20日の日程で東北海岸林再生活動をおこない、5名が参加しました。

ゆりりん愛護会の植林活動に参加すると 2015 年から GEN が加わった宮城県沿岸部被災地区海岸林再生活動結果の現状視察とが今回の目的です。

9月19日朝、仙台駅前のレンタカー社受付前に川島副代表と今回震災復興状況をご紹介いただく仙台在住 20 年余の「まちかど公共研究所」主宰の工藤寛之さん、関東から参加の関口会員と桜井が集合、川島副代表の運転で早速現地荒浜へ向かいました。仙台空港で東川事務局長と高見副代表と合流。名取港に移動して港の様子や海岸に向かう大橋の上から貞山堀や市街地が壊滅した港周りを視察。

工藤氏は震災前からこの界限を広く

自転車で走り回ったそうでその時に撮りためた震災前の写真を用意され、それを示しながら震災前後の変化を詳細に説明してくれました。

続いて訪れた日和山周辺ともども前回 2016 年に見た風景と全く違っている現況に復興の進行を感じるとともに、まだ爪痕の残る風景に改めて震災被害の悲惨さを感じました。

震災遺構になった荒浜小学校、旧深沼海岸バス停周辺の震災遺構とされた住居跡、慰霊碑等見学し、その後 2013 年 5 月に植栽されたクロマツ林を視察。クロマツは幹の直径 10cm、伸長成長は毎年 60cm 以上を記録していて 4m 以上に育ち植栽地は歩けないほどの密集状態でした。その隣の広葉樹密植地はこれもカシワ・クリ・トベラ・ヒサカキ・さくら類など、タブノキが目立たなかったのが少し残念でしたが多くの広葉樹種が旺盛に生育していました。

この後見たアチコチの植栽地どれも、旺盛に成長をしているのが印象的でした。丸太

と板で丹念に設置された防風壁、海岸に建設された長大な高さ 7m 規模の防潮堤の防風防砂防潮効果、さらに温暖化による冬季気温緩和などが複合して海岸林再生保護効果を与えていると思いました。

この日はこれを最後に仙台へ戻り夕食懇親会の場合「花京院へそのを」でゆりりん愛護会の大橋代表と関西から駆け付けた栗栖樹木医と合流しました。

9月20日は朝 09:10 荒浜の海岸公園センターハウスに着き、大橋さんたち、栗栖さんと合流して荒浜の植栽地に行きました。そこで用意されたクロマツのコンテナ苗 300 本をゆりりん愛護会のメンバー 8 人に混じって植栽、1 時間程度で終わり、隣の新植地に侵入したクズの抜き取りを行ってセンターハウスに戻り用意していただいた季節の味ハラコ飯弁当に舌鼓を打ちました。

昼食後、岩沼市寺島地区の「潮除け須賀松の森」の 2015 年 9 月の GEN の植栽地を視察し、さらにクロマツ植栽と広葉樹植栽の比較試験地を見学し、当初予測したのと違ってどちらも旺盛な成長をしていることを確認しました。

被災地区の生活が復旧するまでまだ幾多の問題が生じると思いますが、着実に成長する防災林を通して今後とも応援を続けたいと思います。



元氣よく育っている荒浜の広葉樹



蔚県での貴重な出会い

イオンリテールワークスユニオンツアー報告

8月24日～26日の日程でイオンリテールワークスユニオンのツアー（25名）が蔚県を訪問しました。今回は参加者のみなさんの感想をご紹介します。

○今回初めて植樹活動に参加しました。植樹した木々が大きく育っているのを見て、私が植樹したものが、何十年、何百年後に大きな貢献になっていることが楽しみです。（O.S）

○活動を通じて専門家のみなさまのご意見や考え方を拝聴できたことが嬉しかったです。植樹活動もただ植えるだけでなく、歴史や気候等風土にまつわる話も聞くことができたので、興味深く植樹することができました。4000年の歴史を持つ中国にはたくさんのお話があると思います。垣間見ただけでも知識を得た気分になりました。人生経験豊富な方々との出会いで話が弾み、ゆっくり飲み明かしたい気持ちになりました。（Y.A）

○代王城鎮や樹木見本園で樹木のスペシャリストに木の向きや枝の向き等を教えていただき、時には私のスコップ裁きを見かねて手を貸して下さい、ともに汗を流して植樹ができたことがとてもうれしく、また楽しい思い出となりました。ご一緒できたことを心より感謝いたします。（M.T）

○GENの皆さんはとてもフレンドリー、ユニーク、そして優しい方で、とても魅力的だと感じました。植樹活動を通じて「言葉の壁をも超える人と人とのコミュニケーション」や「積極的に行動してみることの大切さ」を改めて感じました。（N.D）

○植樹の手順も分からない私たちを引っ張ってください、とても心強かったです！長い植樹活動の歴史に一つ参加できたことをうれしく思います。（S.M）

○社外の方がたとの植樹活動や様々なコミュニケーションをとることは社内の活動では得られない貴重な体験となりました。私より先輩の方をお見受けしましたが、頭が下がるばかりです。（M.M）

○植樹についての様々な知識を教え

ていただくととても感謝しています。「北国の春」を教えていただきありがとうございます。（M.A）

○あまり目を向けていなかった地球の自然保護について目のあたりにし、実際に行動することで皆さまのこれまでのご苦勞を想像すると敬服致します。組合内でも、もっとこういった活動のことを知ってもらい、多くの賛同者が増えるように応援していきたいです。（K.T）

○初めての海外、中国で緊張と不安がありました。みなさまの優しさや頼もしさで楽しく、たくさんのお話を学びながら活動することができました。（S.C）

○みなさまの生き生きとした姿や、これまでの経験や知識を社会貢献に活かされていることにとても感銘を受けました。その知

識を丁寧に伝えていただき、とても有意義な時間となりました。もう少し一緒に活動し、お話をお聞きしたかったです。（W.Y）

○その地域の環境にあった植え方や樹木を選んで活動されている皆さんは、今後、次の段階に移っていきと思います。鳥、人間、森の共存を考えたGENさんの新しい発想や取り組みを心から応援します。（O.J）

○GENの皆さんが情熱をもって活動されていることに感銘を受けました。一緒に活動できて、誇りに思います。（F.T）



木津川沿いを歩いてきました

10月6日（日）、GEN自然と親しむ会前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑪木津川沿いを歩くを行いました。8名が参加しました。

野の道シリーズ⑪、木津川沿いを歩くに参加しました。今回はJR笠置駅から東海自然道のハイキングコース歩きました。

駅近くにオートキャンプ場があり、



色とりどりのテントと車がたくさん見えました。木津川沿いの東海自然歩道を歩いていくと、カヌー教室をしていたり、ボルダリングを楽しむ人がいたり、秋の行楽をさまざまなかたちで満喫しているひとを横目に、GENの一行はハイキング道をてくてく進んでいきました。途中、関西本線の線路の真横を通り、電車が手に届きそうな距離にある道や、溪谷の美しい眺めを楽しめるところなどがありました。途中、ジンジャーの花に出会い、やさしく甘い香りにうっとりしました。

そのほか、川の流れて長い時間をかけて岩にできた^{おうけつ}鰐穴（水流による浸食でできたくぼみ）を見たり、ひっそり佇むお地蔵さんに出会ったりと植物以外の観察もいろいろと楽しめた会となりました。（河本）

黄土高原史話 <95>

東魏・北齊の仏教界（下）

それはともかく、天保三年（552）、文宣帝は鄴の南西の龍山に禪を中心とした仏道の専門道場を設け、また諸州に命じて禪刹を置かせた。そのおり帝は、「時に講誦を揚げ、事に豊厚」、つまり講経や法要を行なって豊かな収入を得ていた都市の仏寺を批判して、

仏法の大宗は、静心を本と為す。諸々の法師等、徒らに法化を伝へ、猶ほ囂煩に接するがごとし。未だ闡揚と曰はず、並な除廃すべし。

（『統高僧伝』巻16）

と述べた。ほんらい僧徒たる者は、静寂な処にいて坐禅修行すべきなのに、今さわがしい巷の中で説法教化を垂れている、と。そして市街地にある仏寺を廃止させようとしたが、禅法の師である僧稠の諫めをいれて、それを撤回。僧稠は山林での厳しい修行を通じて心を磨き上げてきた禅師だが、都市部での講説布教も人々が仏道に眼を開くきっかけになる、という柔軟な考えももっていたのだ。

それかあらぬか、文宣帝の勸奨・援助にもかかわらず、山林の禅院に赴く僧侶は少なかった。むしろ、依然として北齊の仏教界では、学識に裏付けられた説法がもてはやされ、貴族官界に名利を求める都市の伽藍仏教が大勢を占めた。北齊・魏収の『魏書』釈老志は、鄴都の仏教の特徴として、僧官制の拡大と僧官の栄達、中央僧官の派閥化を指摘している。つまり、仏教界トップの役職沙門統が1人から10人に増員され、その地位は特定一派によって独占されたのである。

天保十年（559）、文宣帝は甘露寺において「禅居深観」した、と『北齊書』および『北史』にある。ところが両書には、同年、アルコール中毒による惑乱のはて狂死した、とも。「仏法の大宗は、静心を本と為す」、と述べていたのだが…。

北齊①文宣帝の死後、長男の皇太子②はクーデタにより廃され、③孝昭帝は落馬の事故で急死。561年、①③の弟④武成帝が即位するが、政界は（A）

谷口 義介（GEN 会員）

北族系武人グループ、（B）漢人貴族官僚グループ、（C）恩倖・政商グループによる三つ巴の闘争でドロ沼化。けっきょく勝利したのは（C）グループだが、あとには彼らによる専権と乱脈が残るだけ。

そのうえ武成帝の宮中は「淫侈度を過ぐ」（『北史』巻8）といった状態で、皇后胡氏も（C）グループの有力者と不倫関係にあったらしい。

天はそれを見咎めたのか、即位のころから、国内にはしばしば凶作が起こり、北からは異民族突厥が、西からは宿敵の北周が侵寇してきて、国勢は大いに衰えた。それにもかかわらず、朝廷はつぎつぎ大寺を造営するなど仏教事業

はますます盛ん。あとをついだ⑤後主もまた、奢侈横暴。苛斂誅求は宮殿・仏寺の大規模建造と結びつき、いよいよ以て甚だしかった。

晴れて（？）未亡人となった後主の母胡氏は、しきりと仏寺に出入りして、沙門曇献と日夜淫楽にふけるありさま。後主に強要して、情人を沙門統に任じたりした。『広弘明集』巻6、7にいう。

奸蕩奢侈、妃主は昼僧房に入り、子弟は夜尼室に宿る。

今や僧尼二百万余、尼と優婆夷（在俗の女性仏教信者）は実はこれ僧の妻妾にして、墮胎、殺子数知れず。

577年1月20日、名君といわれた北周の第3代武帝（560～578在位）は、乱脈と頹廢の都・北齊の鄴に入城する。これより4年前、帝は北周国内で仏・道2教を禁じていたが、北齊を滅ぼすや、同様に廢仏を断行した。

いますぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）	
一般会費	12,000 円
家族会費（同居の家族2人目から）	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円
※会費は会報購読料を含んでいます。	

■会報を購読してください！

GEN 会報『緑の地球』を購読していただだけませんか。年間購読料 2,000 円。

■緑化資金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、使途自由のご寄付も受付けます。必要に応じて使わせていただきます。緑化資金の 20% は事務管理費になります。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボ

ランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

【GEN への寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定 NPO 法人です（期限は 2024 年 4 月 8 日まで）。個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくは GEN までご連絡ください。



大同緑化協力 25 年の軌跡

わたしたちの協力拠点が植物園に

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で16回目です。(高見邦雄)

大同市における緑化協力は1992年に、はじめ、最初に取り組んだのは水土流失と砂漠化防止のための防護林で、「地球環境林」と名づけました。そして3年目から小学校付属果樹園(中国名・希望果園)の建設をはじめました。

中国側の当時の責任者から「プロジェクトがいくつもの県に散在しているのは管理ができない。統合し牽引する機能が必要だ」という意見がでました。

日本側で参加された立花吉茂先生は「海外でそのような事業を展開するにはパイロットファームが必要だ」と主張されました。日本と中国で2つの意見を統合したのが環境林センターだったのです。

最初は3.5haで、トラクターが必要なときは、運転手と燃料つきで村が派遣してくれました。電気代も水道代も払ったことはありません。

2000年に転機を迎えました。遠田宏先生と私とで大同に到着するなり、「すぐにでも結論を」といって大問題がだされたのです。周囲の土地の買収話が進行中で、環境施設という売り込みだったのが、調べてみるとコークス工場だということです。そんなものがきたら、私たちのセンターを含め、周囲の野菜

栽培がだめになる、安くていいので、あなたが買ってくれたら、すべてまるく収まるということです。

私たちだけでは荷が重いので、立花先生に電話をしたら、「いいでしょう。お金が足りなかったら私が借金しましょう」ということでした。

それで20haもの拠点ができたのです。「これだけの土地があれば、自立できる」といって、スタッフは発奮しました。井戸を掘り、浄水設備をつくり、たくさんの苗を育て、そして現場の問題を持ち帰っては、実験・検討を繰り返し、現場に返しました。文字通りのセンターとなったのです。

2009年になって、敷地の南端近くを幅員56mの道路が東西に横切ることになりました。使いにくくなるな、と私は思ったのですが、大同事務所の人たちは「道路の両側に自分たちの土地をもてる。農産物の直売店をだしてもいいし、人に貸してもいい。自立の目処が立った」といって喜んでいました。

そんな都合のいいことが起こるはずがないのです。植物園をつくるために収用するという連

絡が大同市からきたのは、その翌年のこと。

立花先生の意見に従って、たいていの苗を種から育てていましたので、出荷までに時間がかかります。それでもトネリコはあと1~2年まで迫っていました。これも種から育てて、ものすごい数がありますし、値段もよくて、自立への期待が高まりに高まりました。そこに収用の話です。

もう悔しくて、悔しくて。市長との直談判で代替地を無償でもらえることになったけど、やっぱり悔しかったのです。あれ以上の結末はないと思えるようになったのは、植物園ができて、市民に公開され、喜ばれているのを見てからですね。

口泉植物園になっても、やたらトネリコの木が多い理由もわかってもらえたと思います。



市民の憩いの場となっている口泉植物園

スタディツアー報告会をおこないました

10月22日、エルおおさかにて黄土高原スタディツアー報告会を開催しました。18名が参加しました。

自己紹介のあと、2019年8月のスタディツアーに参加したメンバーが写真とともに報告をしました。「こんな植物があった」、「こんな鳥がいた」という報告から、「農村のトイレはすごかった」というものまで、各自がそれ

ぞれの視点から日本では体験できない貴重な経験を報告し、共有しました。蔚県で購入した土産を参加者にふるまう人もいました。

以前のツアーに参加したかたも大同の懐かしい写真とともにツアーの報告をしました。

最後に参加者それぞれが自由にGENツアーについての意見を述べあい、終

了しました。

10月12日に東京の淑徳大学で開催予定だったGEN関東 brunch の帰国報告会は、台風のため中止となりました。



情報ひろば
いっしょなかたち

第26期
自然大学参加者募集

自然環境について学び考える市民大学は、室内講義と野外実習があります。

○期間：2020年4月12日～2021年3月7日（全14回。原則日曜日開催）

○定員：30名（18歳以上）

○受講料：35,000円（交通費、宿泊費、野外実習の経費等別途）

○講師：只木良也氏（名古屋大学名誉教授）渡辺弘之氏（自然大学学長、京都大学名誉教授）伊藤孝美氏（自然大学教文部長）ほか

○申込み方法：郵便またはファクスでお名前、生年月日、性別、職業、住所、趣味・特技、電話番号、ファクス番号を明記のうえお申込みください。

○主催・申込み先：NPO法人自然と緑（〒537-0025 大阪市東成区中道3-2-34 tel. 06-6978-5060 fax. 06-6978-5061 e-mail: sizen_mi@osb.att.ne.jp URL: http://home.att.ne.jp/iota/sizen_midori/）

新・里山講座
第4回2020年1月開講
受講生募集

大阪にある6つの里山で自然を守るための知識と技術、生物多様性について学びませんか。

○日程：1/12午前開講式「保全協会が目指す里山とは」常俊容子氏、午後

*当欄掲載のイベント情報は情報提供を受けた時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

「森林のしくみ」藤原宣夫氏／1/26

「里山保全事故事例・KYK」「ロー

プワーク」「応急手当短期講習」日

本赤十字社大阪支部／2/2紫金山

フィールド見学「草刈り・道具手入

れ」武田義明氏／2/18「人の暮らし

と里山」佐久間大輔氏／2/23奥の

谷フィールド見学「間伐実習」田淵

武夫氏／3/7共生の森フィールド見

学「植樹」大阪自然環境保全協会／

3/14、15「植生・毎木調査の必要性

と方法」「毎木調査」「森作り企画」

五月山フィールド見学「森づくり」

座学：土生陽子氏、実習：中川勝弘

氏／3/29高代寺山フィールド見学

「竹林間伐」佐藤温夫氏／4/19「炭

焼き体験」佐藤和夫氏／5/3葉室

里山フィールド見学「お茶摘み・お茶

づくり体験」小路公之氏／5/10「里

山保全と生物多様性」「里山活動グ

ループ紹介」「終了式」田淵武夫氏

○募集人数：20名（先着順）

○受講料：一般20,000円、学生15,000円

○申込み方法：氏名、住所、所属、連絡先（電話、ファクス、e-mail）をご記入のうえ、はがき、ファクス、e-mailでお申込みください。

○主催・申込み先：（公社）大阪自然環境保全協会 新・里山講座係（〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202号 tel.

06-6242-8720 fax. 06-6881-8103

e-mail: office@nature.or.jp URL:

<http://www.nature.or.jp/index.html>

おいしいぼんかん
いかがですか

★甲浦ボンカン（低農薬・動物性有機肥料のみ使用）

【歳暮・贈答用化粧箱入り】

A 2L/3L 5kg 30個前後 4,200円

B 2L/3L 3kg 20 ” 2,800円

C L 5kg 35 ” 3,900円

【普通箱入り】

D 2L/3L 5kg 30 ” 3,800円

E 2L/3L 3kg 20 ” 2,500円

F L 5kg 35 ” 3,300円

【家庭用】

G 5kg 33 ” 2,800円

ゆず酢 4合瓶2本入り 4,000円

※出荷：12月10日～2月下旬

※送料別途。20kgまで関西860円、関東・甲信越960円。

★ご注文は

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町大字河内203 田中農園 田中隆一さん（tel./fax. 0887-29-2500 e-mail: tanakan3@cronos.ocn.ne.jp）

※売り上げの一部を寄付していただいています。ご注文の際は一言「GENの紹介」と添えてください。

編集後記

豪雨、台風の被害にあわれたみなさまにお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧を心よりお祈り申し上げます。